

2018情報通信月間参加行事 報告書

行事ID	Jc003M	行事名	非常通信セミナー	
行事形式	ICTセミナー	主催団体	九州総合通信局／九州地方非常通信協議会／ 一般社団法人九州テレコム振興センター	
開催日	5月16日		開催場所	KKRホテル熊本
行事参加者数	97名		WebサイトURL	http://www.soumu.go.jp/soutsu/kyushu/
行事実施概要・アピール等				
<p>本セミナーは、平成28年熊本地震や平成29年九州北部豪雨を踏まえて、非常災害時における防災関連情報の伝達の重要性について理解を深めていただくことを目的として開催しました。</p> <p>講演1では、気象庁 福岡管区気象台 気象防災部 気象防災情報調整官 糸長 登志夫 氏から「新たなステージに対応した防災気象情報の改善」と題して、最近の気象現象の特徴である「雨の降り方が「局地化、集中化、激甚化」しているという状況」や、「大規模な火山噴火がいつおきてもおかしくない状況」を『新たなステージ』として捉え、それに対応するための防災気象情報の改善の方向性、観測・予測技術のあり方について専門的立場からの貴重な講演をいただきました。</p> <p>講演2では、国立研究開発法人情報通信研究機構 ユニバーサルコミュニケーション研究所 大竹 清敬 氏から「SNS上の災害関連情報の分析・要約から利活用へ」と題して、SNS(Twitter)を対象とし、膨大な災害関連情報を整理、要約することで災害対応を支援する2つのシステム「対災害SNS情報分析システムDISAANA(ディサーナ)」と「災害状況要約システムD-SUMM(ディーサム)」について、平成28年熊本地震の際にはツイッター社の協力を得て発災後1ヶ月程度100%のツイート分析を提供、平成29年九州北部豪雨の際には大分県がディサーナ・ディーサムを活用して情報分析を実施し、災害対応に役立てられた例などを紹介され、今後の展開やシステムの今後の課題、次のステップとして、被災者からの位置情報等をもとに要救援者を特定し、要救援者からの情報収集や重要情報を能動的に提供(プッシュ)する「防災チャットボット」の研究についても紹介があり、今後、さらに、効率的な被災地への支援につなげる可能性について、改めて認識を深められる講演内容でした。</p> <p>本セミナーには、企業、自治体、防災機関などから97名の方が参加され、熱心に聴講していただき、所期の目的を達成したものと評価します。</p>				

←ロードバース...セル内で改行する時はAltを押しながらEnterを押してください。

